

中学校部活動の社会体育移行 検討委員会① 議事録

日時：令和 6 年 10 月 10 日（木）15：30

出席者は別添のとおり

15：30～

（緒方主査）

令和 6 年度中学校における休日の部活動地域移行検討委員会を開催します。

（中島教育長）

まずお詫びをしたい。合志市はいつ方針を出すのかと言われます。一つは人の問題とお金の問題。人の問題で県や国とやりとりしているのは、先生や地方公務員等の兼職兼業を認めるのかということです。もう一つは、実際に社会体育に移行した場合、運営に関しての財政面について、国や県から支援をしていただけるのかということですが、まだ方針は出ていません。そこで皆さんに集まっていただいても、判断が難しいのではないかとということで、少しずつ遅れてきてしまいました。

でもさすがに、特に小学校の高学年の保護者が心配している。自分たちの子どもが中学校に行くときには、中学校部活動は無くなっているのでは、との心配の声をいただきます。それについては、子ども達がスポーツを出来る環境づくりに努めていきますので、無くなることはないと答えています。ただ、どのようにするかについてはまだ決まっていないので、具体的なお話はできない。

タイムリミットが近づいていますので、今回、県からいただいている情報をお話ししたいと思います。

令和 7 年度末までに休日の地域移行完了を目指す。平日の地域移行も体制や環境が整った部活動から順次進めていく。ただ、7 年度末までに完了するところにだけお金は出すとのこと。

令和 8 年度以降は、各市町のスポーツ・文化環境の状況及び国の方針を踏まえながら、平日の地域移行の在り方を検討する。また、先生達が担当してもいいと言っている部活についても、地域移行の検討を始める。これを逆手に取ると、7 年も 8 年も今の部活動があってもいいということになる。

しかしそれでは合志市の先生方に多大なる負担をかけることになります。私としてもそれはとても心苦しいと思いますし、少しでもその緩和に協力できる体制ができないのかと考えています。

例えば、今より以上に外部指導者の枠がどんどん増えてくると思いますので、せめて土日の試合がない時は、先生ではなく、保護者やクラブチームの中から、メニューに沿って練習を見てくれる方がいないか、その方に補助をすることができないのかと考えています。

また実際、市独自の支援をするとなると、費用としてこれくらいかかりますよというのを、皆さんに数字でお伝えします。

今やっている先生達の部活動を完全に人を雇い入れてするとします。合志市内には70の部活動があります。平日1時間か1時間半程度を4日間と、土日のどちらか一方を4時間の半日。一人10万円は必要ではないかと考えます。2人で持たれるなら、5万円。それに関して、補償費なども考えないといけません。もし国や県が先生の兼職兼業を認めるなら、先生達は給料として単純に10万円増えることになります。

ただ、国の移行に合わせて実施しているときまでは補助金はあるようですが、それ以降はないとのこと。なので、月10万円集めるとしたら、10人しかいない部活の保護者は、一人1万円の負担になってしまいます。

それは大変だろうと、市が全部持ちますということになると、70チームありますので、月に700万円、年間8千万以上はかかります。市の持ち出しが1億くらいはかかるが、それを市民の皆さんのご理解が得られるかどうか。これについては、諮問を受けた後に、市長とも協議をしていかなければなりません。

熊本市がやっているように、部活動できますと言えればいいですが、それは先生達の多大な犠牲の上に成り立っているもので、あまりにも忍びない。なので、折衷案を考え、お金の出し方も検討したいと思います。

情報として、休日の部活動完了が6年度末に終わるのは5市長村、7年度末に終わるのが15市町村。8年度末が7市町村。未定が17市町村あります。うちはその中の一つです。で、議題に出てくるのは指導者の確保と財政的な支援。それから受益者負担。平日と休日を分けるとすれば、その連携。

人吉市や玉名、南関など、要するに少子化で一つの部活が一つの中学校でできないから、地域型に移行しなければいけないところはあります。うちのよう

ありません。そこで、皆さんのご意見を受け止めまして、市政にも反映しないといけませんし、市民の皆さんや保護者の方の不安も解消しないといけません。先生方には多大なる負担をおかけしますが、部活動の存続ということについて、私は責任をもっと感じないといけません。それでは検討委員会をよろしく願います。

・・議長選出 高本議長

(高本議長)

国、県の動向説明と実態調査について説明をお願いします。

・・資料（ガイドライン等）に沿って説明（緒方）

【質疑・応答】

(高本議長)

小学校の場合は、休日・平日関係なく一斉に移行したと思います。中学校はそこについてはワンクッションあるとは思いますが。小学校の場合は、平成30年に部活動が全部なくなるという通知が来て、慌てて総合型とか地域のスポーツクラブに受け皿になってもらった。それはそれでやりやすかったのですか。

(緒方主査)

小学校の場合は、H30年度をもって、一斉になくなった。ある意味やりやすかった。保護者のとまどいはありましたが。中学校は中体連という大きな組織があり、そこと連携する必要がある。中学校の場合は試合数も結構多いので、一気に変えることは難しいということで、期間を設けたのだと思います。

(高本議長)

小学校の部活動は全国でも熊本は珍しい例です。ほとんどがクラブチームでして、小学校に部活動があるのってびっくりされるような感じです。文科省としてもやりやすかったのではないかと思います。

(緒方主査)

大津町が少し進んだ取り組みをしております。コーディネーターが2人いるが、大津町でさえ保護者達が、部活動なくなるの？と言われる。その誤解を解かないといけません。あくまで休日の部活動を移行するということです。

(高本議長)

一番の問題は指導者です。専門的な指導者は見つからない。若い人を探そうとしても、子育てや仕事でできない。クラブに移っている人は、夜8時から10時までとか。そういう活動をしていますので難しい。今のところ休日ですが、将来的には検討する必要があると思います。

(西南中：大山校長)

休日も平日も移行して、うまくいつている地域があるのか。もめる元になってしまうのではないのでしょうか。

(緒方主査)

玉名市が拠点校方式にしているので、指導者がばらけていません。外部指導者がやっています。長洲は統合するしかなかった。合同部活動でやっています。休日だけを外部に渡した場合、その意思疎通をどう図っていくのかというのは大きな課題だと思います。子ども達を中心考えないといけません。

(クラブこうし：村田)

平日を見ない指導者が、休日の試合だけを見て成り立つもののでしょうか。例えば平日は基本顧問の先生がいらっしゃって、外部コーチとして、水曜日と土日に来ていただく。それでコミュニケーションが取れる。平日を見てくれないと、連携は取れないのではないのでしょうか。土日だけというのは、指導者を探すのも難しいと思います。

(西合志中：大山校長)

拠点校方式にすると、子どもたちの移動はどうなるのか。

(緒方主査)

移動は中学生ですので、自転車ということも考えています。負担にはなりますが、保護者の送迎ということも考えています。

(西合志：田崎校長)

移動手段がない子供たちについて、部活動ができなくなるのではないのでしょうか。バスなどでまとめて移動できないのでしょうか。

(高本議長)

小さな市町ならいいが、この規模だと難しいのではないかと思います。

(合志中：林教諭)

土日の指導と平日の指導を完全に別に考えた方がいいと思います。例えば学校の勉強と塾の勉強のように。土日は例えばバレーボール塾とかにする。そこ

に子ども達が行くか行かないかは自由にする。毎週日曜日にそれをやっていただければ、自分は休める。指導者も子どもも休める。土日を平日の延長と考えるのは難しいのではないのでしょうか。

(緒方主査)

外部コーチがそのまま延長でと考えると難しい現状があるのではないか。その方法も考えていますが、指導者がいるかどうかが問題になります。あと保護者の負担も増えることになると思います。

(西南中：大山校長)

運動部となっていますが、吹奏楽部については楽器があります。楽器があるので、学校を開けないといけません。学校を開けるということは、学校職員が必ず行かないといけないという管理上の問題があります。他の部活があっている体育館のステージ上で歌うことも現実的ではありません。

(緒方主査)

吹奏楽部のような道具を使う部活については、施設の管理もあるので、課題として検討していかななくてはなりません。

・・実態調査アンケートについて説明 (緒方主査)

【質疑・応答】

なし

・・タイムスケジュールについて説明 (緒方主査)

【質疑・応答】

なし

・・休日の地域移行に関する考察について説明 (緒方主査)

(牧野課長)

補足ですが、一番左の欄に、完全移行するのか、一部移行するのかなどの区分がありますが、まずは全体的に課題を出し合って、それを整理したうえで、どのようにしていいのかを検討して、方向性を出していけたらと思います。指導者の確保や、場所の問題など、様々な課題があると思います。また個別にでもいいですので、教えていただけたらと思います。

【質疑・応答】

(西合志中：高宮教諭)

課題は既に出尽くしているのではないのでしょうか。

(高本議長)

各学校で持ち帰っていただいて、部活動の保護者会長さんとかとお話しをしていただけたらと思います。それを次の第2回で話し合うことができたらと思います。

(西合志中：田崎校長)

実証事業というのは、例えばモデルとしてこういうやり方がありますとか、誰かがプレゼンしていただけるのでしょうか。

(小林指導主事)

これは、全国的に社会体育移行を推進するために、市町村が実証事業に応募して行うものです。大津町などが実施しています。うちは応募していません。これを来年度とかに実施するのでしょうか。こういうのを活用したほうが、いろいろと見えてくる部分もあります。教育長も言われましたが、その時はお金が出ても、結局その後引き上げるので、その後どうするのかという問題はあります。その辺も含めた説明になります。

(高本議長)

それでは、これを持ちまして閉会いたします。ありがとうございました。